

客中の作

李

白

蘭陵の美酒鬱金香

玉碗盛り来る琥珀の光

但主人能く客を酔わしめば

知らず何れの処か是れ他郷

【作者】李白(七〇一〜七六二年)盛唐の詩人。字は太白で、自ら青蓮居士と号する。西域で生まれ、四川で育つ。翰林供奉(かんにんぐぶ)

となるが高力士に憎まれてまもなく追われ、また放浪生活に入り、その間、杜甫とともに旅をしたこともある。のち安祿山の乱のとき永王の軍に加わったため夜郎(貴州省)に流されることになり、途中で大赦にあい、また各地を往来するうちに安徽省で死んだ。杜甫とともに中国最高の詩人として「李杜」と並称され、杜甫が「詩聖」と呼ばれるのに対して「詩仙」と呼ばれる。絶句と樂府(がふ)を最も得意とし、自由奔放で豪快な盛唐の詩風を代表する。詩文集『李太白集』がある。

【語釈】客中行…「旅先での歌」の意。 *客…よその地を旅すること。 *中……を…している時、中。 *行…歌行。詩歌。

*蘭陵…地名。山東省最南端の蒼山(の西南30キロメートル)、棗莊市(の東南東40キロメートル)の中間にある。

*鬱金香…チューリップ。 *玉碗…玉(ぎよく)で出来たさかづき。玉杯。

【通釈】「旅先の作 李白」・蘭陵のうまい酒は、鬱金香のような芳香をはなっている。美しき杯にもれば、琥珀色に光り耀いている。

ただ、この宿屋の主人が旅人の私を十分に酔わせてさえくれれば、いったい、どこが他郷であろうか、故郷に居ると少しも変わりはないのだ。